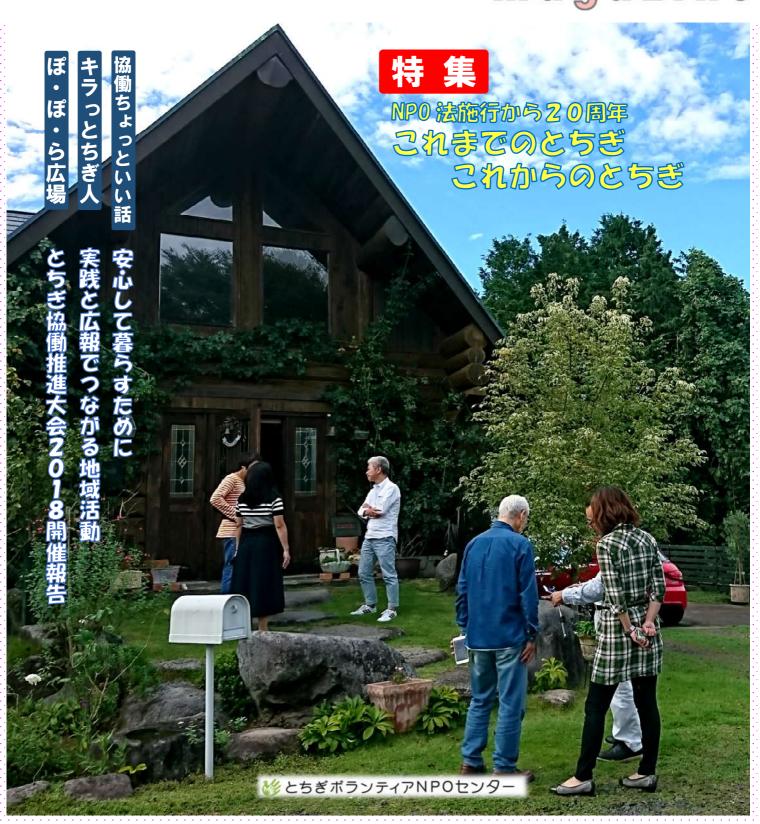
# 13・13・

5

2 0 1 9 Spring

,<sub>1</sub>.27

=magazine



## 2007年

## NPO 法の施行に関わる事務の一部 を市町に権限移譲開始

NPO法人の設立相談や認証手続 きが身近な市町で行えるよう、県から 市町への権限移譲が始まりました。

2016 年からは、県内全市町で手続 き出来るようになりました。

## 雇用不安に対する支援の輪が広がる

リーマンショック等により、非正規 労働者等の相対的貧困問題が課題と なりました。「フードバンク宇都宮」 など、生活困窮者に食料を提供する活 動などが広がりました。

※フードバンクとは、生活困窮する 人々に食料を提供する活動です。

> ファンドレイジング (非営利団体の資金 調達)に注目が集ま ※2009年日本ファ ンドレイジング協会設立

## とちぎコミュニティファンドが発足

非営利組織において資金循環する 仕組みを実現するため、「とちぎコ ミュニティファンド」が発足しまし た。

寄附を市民に身近に感じてもらう 「寄附ハイク」や「サンタ de ラ ン」等のイベントを開催。参加団体 全体で寄附金を集める仕組みとなっ ています。

また、公益コミュニティ「CAN PAN 内の情報公開について一定 基準満たした団体に、認証マークの 付与などを行っています。

(現:とちぎコミュニティ基金)



## 2011年

## 全国ボランティアコーディネーター 研究集会 2014 とちぎを開催

ボランティアコーディネーション に携わる89名の実行委員とボランテ ィアが、全国 213 名の参加者ととも に、26 の分科会を通して知識や技術 を磨きました。

社会福祉協議会や中間支援センタ 一、病院、老人ホームなど、様々な場 所で、ボランティアコーディネーター が、学びを活かして活躍しています。

2015年 ∼現在

2015年 関東・東北豪雨発生 1万人以上がボラン ティア活動参加

> 2018年 県民の社会貢献

2012年 県民の社会貢献 活動参加率 36.9%

2011年 東日本大震災発生 全国約150万人が

現在の社会には、子供の貧困 や災害時の対応、SDGsなど、 課題が山積しています。これら の課題解決には、多様な主体が 協働して取り組むことが重要で す。とちぎの未来に向けて、 力を合わせていきましょう!

~とちぎの未来に向けて~

ボランティア活動参加

## とちぎ暮らし応援会が発足



他県から県内に避難された方々へ の支援を目的として、とちぎ協働デ ザインリーグ(ぽ・ぽ・ら管理運営 受託団体)を中心に、ボランティア・ NPO団体、社会福祉協議会、大学、 企業、行政等、約70団体による「と ちぎ暮らし応援会」が発足し、活動 を開始しました。避難者を「オール とちぎ」体制で支援することとし、 戸別訪問から、勉強会や交流会・相 談会の開催など、一人ひとりに寄り 添う活動を行いました。

現在では、事務局を「とちぎボラ ンティアネットワーク」に移行し、 避難者の支援活動を継続していま す。

県内NPO法人 約650法人

県内中間支援 センター数 14か所

## 高校生の社会貢献活動が活発化

鹿沼市「高校生まち変プロジェク ト」、宇都宮市「宮つく」、栃木市「高 校生蔵部」など、高校生が自ら社会 課題を捉え解決方法を考える団体 が、各地で見られるようになりまし た。高校の地域の枠を越えた活動で あることも特徴的です。

2015年には、各団体と応援したい大 人たちが意見交換する「まちづくり 大作戦~若者 VS 大人~」が開催され ました。



## NPO法施行から20周年 これまでのとちぎ これからのとちぎ

平成10(1998)年にNPO法(特定非営利活動促進法)が制定されてから20年。この間、社会は大きく変わり、様々な地域課題を市民の力で解決したり、サービスを提供しようする市民活動が盛んに行われるようになりました。しかし、活動の場が増えた一方、現場のボランティアが不足しているなどの状況も生じてきています。これからの複雑多様化する地域課題を乗り越えていくためには、県民の皆様の「誰かの役に立ちたい」気持ちが欠かせません。皆様の思いを"お互いさま"の社会づくりの具体的な行動につなげてみませんか。

1995年

 $\sim$ 

## 那須水害が発生

栃木県北部や福島県などでは記録的な大雨となりました。これらの災害に対応するため、多くのボランティアが泥かきなどのハード面から、クリスマス会の主催などのソフト面まで、被災者の心に寄り添う様々な活動が行われました。

この時始められたボランティアの 仕組みが、現在、全国で運営される 「災害ボランティアセンター」の原 型と言われています。

NPO 法施行

阪神淡路大震災以降、ボランティア団体が活動を継続していく上で、財産を所有したり、契約の主体になれないことが、大きな課題となってきました。1998年3月に議員立法から成立したこの法律は、大きな期待をもって迎えられました。



1995年 阪神淡路大震災発生 「ボランティア元年」と呼ばれる



1999年

 $\sim$ 

## 県内初のNPO法人が設立

1999年4月、県内初のNPO法人「福聚会」が設立しました。

現在でも、福祉の社会化を考える フォーラムを開催するなど、精力的 に活動を続けています。



2001年 県民の社会貢献活 県民の社会貢献活 動参加率 18.1% 動参加率 18.1%

> 2001年 国連ボランティア 国際年

NPO やボランティア団体を支援する拠点である「中間支援点である」が、全国センター」が、全国で開設され始めたで開設され始めた

## 県内初の中間支援センターが開設

県内初の中間支援センターとして、 「佐野市市民活動センター」が オープンしました。 2003年

 $\sim$ 

## NPO と行政との意見交換会を開催



NPO等と行政担当者が、共通する課題やテーマについて自由に意見交換を行い、テーマに基づく事業の展開手法などについて検討することを目的に、

開催しています。

NPOと行政と の垣根が低くなってきた

2003年 とちぎボランティア NPO センター ぽ・ぽ・らオープン

## 協働フォーラムを開催

協働の意義や進める上での課題について理解を広め、協働の取組事例を学びながら、まちづくりのあり方について考えるために、開催されました。

その後、名称や実施スタイルを変更 しながら、2016年からは、「とちぎ協 働推進大会」として続いています。



## 協働ちょっといい話

## 安心して暮らすために NPO法人 ハイジ理事

とちぎ協働アドバイザー

中村 絹 江

私が所属するNPO法人ハイ

度より指定管理者として管理運 進センタ―『くらら』を平成18年 しています。 問題も解決しながら、活動を継続 が協働のコツをつかみ、経済的な 支援の役割を果たしてきました。 介し、市民と依頼者をつなぐ中間 相談に応じて、市民活動団体を紹 握した上で、学校や施設、行政の として、 営しています。その仕事のひとつ 現在では、多くの自立した団体 登録団体の活動状況を把

われています。 きるにはどうしたらよいか」が問 らしを最後まで続けることがで 住み慣れた地域で自分らしい暮 あります。その一方で、「高齢者が 担う市民と信頼関係を築きつつ や相談も増えてきました。次代を で、高校生や二十代の若者の利用 最近は、若い職員がいるおかげ

遺言、相続等に関する基礎 基礎として、家族法や契約、 座』を受講しました。民法 席して、利用者のご家族や自 義していただきました。また、 話を聞かせていただいてい 治会長、民生委員の方々の 会主催の『市民後見人養成講 や財産法等の基礎知識を講 先日、 施設の地域運営会議 栃木市社会福祉協

課と業務内容が良く分かりま 年金制度、税務申告制度に 活保護制度、健康保険制度、 市福祉課の職員が講師とな いて説明していただき、担当 障害者施策をはじめ、生

せないことを実感し ようなセンターになるために も、関係機関との協働が欠か 市民が安心して相談できる 大歓迎行游戏

齢者教室に出かけて行ってニー ろんのこと、各地域の居場所や高 課との協働事業が始まりました。 祉協議会や市地域包括ケア推進 ター業務の委託を受け、市社会福

本年度、生活支援コーディネー

関係機関との情報交換はもち



ズの把握に努めています。 に出 お

行うビルメンテナンス企業

サルク栃木:会員同士の助

グセンターや病院などの清掃を

株式会社マルハ・ショッピン

などを実施するNPO法人

協働内容:ナルク栃木の会員

一人暮らしの高齢者の家事支援

合いを中心にしているが、

特に

きな要因です。また、大人数で う気持ちが一致したことが、大 と社員の、社会貢献したいとい

株式会社マルハでは、

〇協働が継続するポイントは?

サービス向上を図っています。 た高齢者の支援を行うことで、 社員が同行し、専門性を活かし の活動時に、株式会社マルハの

りが生まれました。会員から

により、これまでの活動に広が

また、ナルク栃木では、協

います。」とのことです。

きそうなNPOはあるか?」と に至りました。 回の話合いを重ねて協働の実現 れていたナルク栃木を紹介しま れ、以前から協働に関心を持た 術で社会貢献したいが、協働で した。「ぽ・ぽ・ら」を介し、数 「ぽ・ぽ・ら」に相談が寄せら

# 〇恊働を始めるきっかけは?

株式会社マルハから「清掃技

協働によるWINWINを生 むことにつながっています。 が生まれ意欲が高まることが、 言葉により、関わる人々の誇り 「ありがとう」という感謝





無理なく協働を続けるためには

③日程を調整して、両者が一緒

に支援活動を行う。

②企業の営業の一環ではないこ

とを共有する。

①サービスを受ける高齢者の安

心感を担保する。

〇恊働に当たり留意した点は?

ため、無理なく続けられたと思 助かっています。話し相手にも りますが、少人数で行っている 関わると、企業として負担にな も、「丁寧に清掃していただき です ●問合せ:株式会社マルハ 住所:宇都宮市東宿郷4-2-7 フリーデンハイム401号 ナルク栃木(NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ) 住所:宇都宮市大和2-12-27 小牧ビル TEL:O28-6 TEL: 028-633-7171 TEL: 028-684-0050

よ。」と喜ばれています。 なってもらっているの

## キラっとちぎ人

県内で活躍する人やNPOの取組みを紹介します。

# (践と広報でつながる地域活

NPO法人

三区町地域資源

環境保全会

副理事長(事務局長)

地域協働推進員

鈴木

良雄さん

在は、三区町環境保全隊の事務には、三区町地域資源・環境保全会の三区町地域資源・環境保全会の三区町地域資源・環境保全会の

きたそうだ。

は 16 けになったのは、新住民として、 鈴木さんが地域と関わるきっか 現在では大所帯となっている。 ある。故に、引っ越してきた当初 ぜこのように地域で活躍するこ 住民用に宅地開発された地域で った。鈴木さんが住む三区町は、 とになったのか、ひも解いてい 場 移住者である鈴木さんが、 誘致に伴い、農村地域に新 班だった自治会も47 班と 知り、 とが、

な助成金申請も、コツを掴んでな助成金申請も、コツを掴んではプレゼン資料等のこと。今ではプレゼン資料等が、その技術は退職後覚えたとが、その技術は退職後覚えたとが、その技術は退職後覚えたとが、その技術は退職後覚えたとが、その技術は退職後覚えたとが、その技術は退職と感じ、廃れての希薄化を課題と感じ、廃れての希薄化を課題と感じ、廃れての

TFI: 080-5961-9684

践・広報の両輪を回していくこにとが、とても残念であり、「実となる「知らない・聞いてない」となるにとお答えいただいた。いくら良とお答えいただいた。いくら良とお答えいだがいた。いくら良いことを、お話動の上で大切なことを、お

輝いている。 とが、活動を とが、活動を とが、活動を

なった鈴木さんは新住民が増えとなったことだという。区長と初のこの地域の区長(自治会長)

たことにより、

地域のつながり

災の被災地での炊き出し。チャーその主な活動は、東日本大震

栃木照る照る坊主の会

笑顔を届けるボランティア

た。2人のラーメン店主と14人た。2人のラーメンを提供することができラーメンを提供することができた。2人のラーメン店主と1人た。2人のラーメン店主と1人た。2人のラーメン店主と1人た。1人の社会人や学生ボランティアとの社会人や学生ボランティアとれたという。「自分の欲得で動場がず、皆が一つになったからこかず、皆が一つになったからこかず、皆が一つになったからこかず、皆が一つになったからこ

った。」というにも降られなかされていた大雨にも降られなかは一緒に」という仲間が続々とは一緒に」という仲間が続々とは一緒に」という仲間が続々とは一緒に」という仲間が続々との報告会を行ったところ、「次の 報告会を行ったところ、「次の がった。」、そう語る和知さんの笑の会議を重ね、様々な活動を行ったいる。

明地を訪れている。 明地を訪れている。この活動で を植えた。今も年に数回は、地元 を植えた。今も年に数回は、地元 を植えた。今も年に数回は、地元 を植えた。今も年に数回は、地元 をがった。今も年に数回は、地元 をがった。

そして可より、「ボランティアをおける」などを大切にしていいまずは行動してみる」、「相手「まずは行動してみる」、「相手「まずは行動してみる」、「相手の立場を尊重する」、「相手の立場を尊重する」、「相手の立場をある」、「相手の立場をある」という。

を思わされた。 「夢拾い」と がして毎日ゴミ おいも続ける和 おいも続ける和 地域にも笑顔と 地域にも笑顔と

●問会せ:栃木昭ス昭ス昭ス抗主の会 住所:ト三川町ト三川3195-1 「藤原家」 TFI:0285-56-534



4

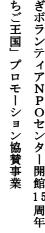
## カナげさまで 15 周年

**13º** 



## とちぎボランティアNPOセンター開館 15 「いちご王国」プロモーション協賛事業

煴



\*とちぎ国体 いちご一会ボランティアプロジェクト\* いちごを編んでおもてなししませんか?

ちぎ国体 いちご一会ボランテ しています。 イアプロジェクト」を試行実施 1 5 ンター「ぽ・ぽ・ら」では、開館 とちぎボランティアNPOセ (いちご) 周年を記念し、「と

することを目的としています。 開催される「いちご一会とちぎ もてなしの心」で温かくお迎え 国体」で本県を訪れる方々を「お 「手編みのいちご(アクリルた この事業は、2022年度に 具体的には、県民の皆様から

わし)」を寄附していただき、 帰っていただくプロジェクトで 体開催時に来訪者にお渡しし 本県の思い出とともに持ち いちごたわしの寄附募集と 「手編みのいちご」 玉 いちごの

アクリルたわし

事業となって 行う、参加型の を作るワークショップも

> ア。 か ? 0) 編んで、国体の際に栃木県を訪 れる方々に、エコとおもてなし 手 ハートを届けてみませ あなたも、いちごたわしを 仕事で始めるボランティ

## ワークショップ今後の予定

まで、 ご確認いただくか、ぽ・ぽ・ら ます。開催日はホームページを 年度まで、概ね毎月2回開催し 玉 体が開催される20 お問い合わせください 2 2

や自動車内のほこり取りなどにも使えます。

若者も企画 から参加

若者と社会貢献団体との交流イベントを開催しました

とりまワクワクすることやってみっ

#ワンチャンあるかも

感

も」を開催しました。 ってみ?#ワンチャンあるか ア参加きっかけづくりイベント 市において、 「※とりまワクワクすることや 平 成 30 年 12月2日に大田 若者のボランティ

や県北地域のボランティアと共 葉でネーミングをしてくれまし タイトルも若者自ら、 か?」をテーマに「ぽ・ぽ・ら」 はどう仕掛けていけば良い で「よき会」を結成しました。 若者にボランティアへの 一歩を踏み出してもらえるに 大人と若者の混成メンバー 彼らの言 初め の

ンドの演奏から始めるなど、 当日のプログラムも、高校生 「参加しや

いちご編みワークショップ

は、手ぶらで

同世代の先を既に踏み 成しました。 意識して構

すさ」を常に

※とりま→とりあえずまあ ワンチャンス



きました。 ちは「もっと聞きたいこと」を直 烈なメッセージを受けた若者た ボランティア活動に参加しやす の「最初の と仲間に問いかけ、彼にとって も、「団体のどこに魅力を感じ ンを行ったことが無かった若者 接団体に聞きに行きました。 を共有してもらいました。 て、話を聞きに行きましたか? は、これまでファシリテーシ その後のワークショップ 今後も「よき会」は若者たちが を通して感じるワクワク 参加団体による活動発表と熱 一歩」を踏み出してい 彐

くなるよう、 フォローアップを



## とちぎ協働推進大会 2018 開催報告

栃木県内では、ボランティアやNPO、企業、行政等、様々な主体が協働で地域課題の解決に取り組んでいます。11月5日に、県と「ぽ・ぽ・ら」との共催により開催された「とちぎ協働推進大会」では、今年で2回目となる「輝く"とちぎ"づくり表彰式」、基調講演、分科会が行われました。協働に関心のある方々が集い、取組の成果を共有し、交流を深めました。これから協働を始めたいなどの相談には、「ぽ・ぽ・ら」をご利用ください。



第2回 輝く"とちぎ"づくり表彰

優れた協働の取組として、1取組2団体が最優秀賞、2取組4団体が優秀賞を受賞されました。受賞された皆様、おめでとうございます。

## 優秀賞

NPO法人トチギ環境未来基地

一般社団法人栃木県若年者支援機構

子どもも里山も輝く「子どもの里山」事業

## 最優秀賞

はが路 100km 徒歩の旅実行委員会

一般社団法人真岡青年会議所

はが路 100km 徒歩の旅

..........

## **憂秀當**

とちぎの木を活かす女子の会~木輪~

栃木県木材業協同組合連合会

栃木県産材の認知度向上 に向けた広報活動



## 子どもと若者で記念写真

荒廃が進んだ里山を整備し、 子どもたちが安全に遊べる里山 を増やす活動を行っています。

今後も、里山整備をボランティアの皆様と共に進めながら、 より多くの子どもたちが里山や自然を体験する機会をつくっていきたいです。

## 気合いを入れるチクサクコール

芳賀郡内100kmの道のりを、 小学生が4泊5日かけて歩きぬく イベントを開催しています。

これからも、さらなる地域への 広がりと共に、「地域の子どもたち は地域で育てる」という意識と地域 の教育力の向上をはかり、活力ある 健やかな地域になることを目指し ていきます。 もくりんフェス

林業への理解促進のため、木製品の販売などを行う「もくりんフェス」やラジオ番組を実施しています。

今後も、イベント参加やラジオ 番組の企画・出演、木輪プロデュースの森づくり等、県産材の PRを続けていきます。

基調講演の後、テーマ別に3分科会に分かれ、 事例発表や意見交換が行われました。

# 基調講演

NPO法人グラウンドワーク三島 専務理事の渡辺豊博さんから、『市 民活動のこれまでとこれからの協 働によるまちづくり』をテーマに、 熱く語っていただきました。



## 第1分科会

とちぎの次世代を担うこれからの協働





## 「輝くとちぎの人づくり推進基金」にご協力ください

500円以上寄附すると、とちま くんピンバッジがもらえるまる。



栃木県では、県民誰もがそれぞれの能力を十分に発揮 しながら、地域づくりの担い手として活躍することがで きるよう、平成28年度から、「輝くとちぎの人づくり 推進基金」を設置しています。皆様から寄せられた寄附 金をもとに、地域づくりの担い手育成や地域課題解決の ための活動支援、様々な立場にある県民の皆様が能力を 発揮できる環境づくりなどが進められます。

基金へのご協力をぜひよろしくお願いします。

(平成 29 年度寄附額 1,739,342 円) **□ 1,739**,342 円)

詳細は、ホームページをご参照ください。

人づくり基金





## 活用例★ボランティア理解促進事業

若い世代のボランティア活動への参加を 促進するため、中学生向けに作成したマン ガ教材を活用し、中学校における出前講座 を実施しています。



## **愿·愿·与からのお知らせ**

## -特定非営利活動法人の 政治活動を目的とした活動の禁止について~

NPO法人は、NPO法第2 条第2項第2号ハにおいて、特 定の公職の候補者若しくは公職 にある者又は政党を推薦した り、支持したり、反対することを 目的として活動することが禁止 されております。



内閣府HP

5月の大型連休について

B	A	火	水	木	金	土
4/28	29	30	5/1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11

ぽ・ぽ・らの閉館日は赤字のとおりです。皆 様にはご迷惑をおかけし申し訳ありませんが、 ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 「ぽ・ぽ・ら」基本情報

開館時間 火~金 9:30~18:00 土日 9:30~17:00

休 館 日 月曜日·祝日·年末年始·臨時休館

駐車場 付帯駐車場7台(障害者等優先)

県庁地下駐車場(2時間まで無料、県庁閉館日を除く) 駐車券を事務室までお持ちください

所 〒320-0032 住

栃木県宇都宮市昭和2丁目2番7号

TEL 028-623-3455 FAX 028-623-3465

※Wi-Fi が利用できるようになりました。 会議、研修等にもご活用ください。 ご利用方法はスタッフまでおたずねください。



管理運営団体 とちぎ協働デザインリーグ

■編集後記■ 表紙の写真は、昨年9月22日に茂木町の山の上に位置するオーガニックカフェ「ポブ リ」で開催した、「テーマ別ミニサロン」第1回〜地方創生と人づくり〜での一コマです。茂木町の美し く豊かな自然を味わいながら、人口減少を食い止めるために必要なことなどを話し合いました。次世代の 担い手づくり・自治会活動やコミュニティづくりなど、人が地域に関わる仕組みづくりが大切であるこ と、各自の取組の紹介、他地域との交流の企画や参加などにより、やる気や課題対応に関わる意識が目覚 める、など活発な意見交換がなされました。



至JR宇都宮駅

栃木県庁

ぽ・ぽ・らマガジン vol.27 平成31年3月発行 とちぎボランティアNPO センター「ぽ・ぽ・ら」